

「感情」を表す形容詞としての「寒い」について

漆 谷 広 樹

要 旨:「寒い」とその類義語「冷たい」や「冷ややか」等が、「感覚」ではなく「感情」を表す意味になる場合に注目した。それぞれの語がどの程度「感情」を表す表現として使用され、どのような用法を持っているのかについて観察し、その特徴について考察を行った。その結果、「寒い」「冷たい」「冷ややか」等とそれぞれが修飾する語との間に存している意味の類似性の程度が、比喩で表現された際に示す意味に影響を持っているということがわかった。この類似性の程度を利用しながら、様々な比喩表現が産出されている。意味の類似性が乏しい場合には、読み手がどのような類似性があるのか考える必要がある。この意味の類似性の乏しさを利用して、含みのある表現が産出される場合も存していることがわかる。

1 問題の所在

形容詞「寒い」「冷たい」は、一般に風などから身体に感じられる温度について表現する際に使用され、感覚を表す形容詞として用いられる。またこれらの形容詞にはさらに、「心が寒い」や「視線が冷たい」のように「感情」を表現する際に用いられることがある。これは「寒い」が比喩的な意味として用いられる場合である。

本稿では「寒い」と「冷たい」等の「感覚」を表現する形容詞が、比喩的な意味で使用されている場合について見ていく。「寒い」などの「感覚表現」が、「感情表現」として使用される際、どのような特徴が見られるのだろうか。以下、「寒い」「冷たい」「冷ややか」の他に「寒々しい」「心寒い」等の類義語についてそれぞれの特徴を見ていくことにする。

2 辞書類の記述

ここではまず「寒い」「冷たい」および「冷ややか」について、辞書類ではどのように記述されているのか、その比喩表現について関連する記述を中心に見ていく。

「寒い」

- ・心や体が冷えるように感じられるさま。ア 恐ろしさにぞっとする感じである イ あまりに貧弱で、心細く頼りない感じである。(『日本語新辞典』)
- ・「さむい」は気温に関する意味が中心で、それ以外の比喩的な用法は少なく、抽象度は高くない。(『現代形容詞用法辞典』)
- ・中古において均衡状態を保っていた「寒し」と「冷たし」は、次第に、感覚主の状態を表すか、対象の状態を表すかということによって、意味用法が変化して、意味用法が分化していき、特に「寒し」は比較的早く、

(2) 「感情」を表す形容詞としての「寒い」について

現代語に近い意味領域を獲得した。(『日本国語大辞典』語誌)。

「冷たい」

- ・感情に乏しく、人に対してよそよそしい態度をとるさま。冷淡で愛情や思いやりがない。(『日本語新辞典』)
- ・「つめたい戦争」は、武器を用いない争いという意味である。プラスマイナスのイメージはない。
- ・「① 彼女は姑のつめたい仕打ちに堪えられなかった。」愛情や思いやりがない様子を表す(⇔あたたかい)。マイナスイメージの語。冷淡であるという意味であるが、かなり客観的な表現で、被害者意識は暗示されていない点が「つらい」「つれない」などと異なる。
- ・「つめたい」は「ひややか」にも似ているが、「ひややか」にある冷静さの暗示は「つめたい」にはない。(『現代形容詞用法辞典』)

「冷ややか」

- ・(2) 物に動かされず、愛情に乏しい様子を表す。ややマイナスイメージの語。愛情がないというよりは、感情が動かず、落ち着いているという冷静さの暗示のある語である。「つめたい」にも似た意味があるが、「つめたい」のほうが無情である暗示があり、程度が高くなっている。(『現代形容詞用法辞典』)
- ・(2) 扱い方や態度に思いやりのないさま。つめたい態度であるさま。冷淡なさま。(3) 落ち着いて者に動かないさま。冷静なさま。

これらによると、以上の3語の中で、「寒い」は「比喩的用法は少なく、抽象度は高くない」と記述されている。この場合、比喩的な表現には用いられにくいという意味に解される。また「冷たい」と「冷ややか」については、感情を表出する程度に差異が見られ、「冷や

やか」が「冷たい」よりも「冷静さ」を持つ語であることが述べられている。

それでは、実際にはこれらの語はどのような様相を示しているのだろうか。以下、最近の用法にも注目しながら考察を進めていくことにする。

3 「寒い」の類義語の状況

3.1 「寒い」の場合

ここでは、まず感情を表す意味の「寒い」がどの程度存しているのか、またどのように用いられているのかについて、具体的に例を挙げながら考察していく。

・「寒い」のガ格

最初に、感情を表す意「寒い」が、何について表現されているのかについて見る。方法としては、BCCWJ(日本語書き言葉均衡コーパス)を用いて、「～が」+「寒い」で検索した場合に、「寒い」のガ格に来る語がどの程度見られるのかについて調査する。その結果、延べ語数で158件の例が見られた。ガ格で表示される感情表現は、次に挙げる6語(0.4%)のみで、あまり多くないことがわかる(注1)。具体的には、以下の通りである。

心 心胆 気持ち 感情 懐 オヤジギャグ

「心が寒い」

(1) 怒号と物が錯綜する現場で、心が寒くなった。(『トッコウ服を着ない日』

2003年 日本評論社)

用例(1)の場合は、「恐怖などから感情が萎縮したり落ち込んだりする様子」を表している。これは「寒さで体が委縮する」という意味から、「心が委縮する」という意味が類推された用法である。この場合は「萎縮や緊張の度合いが高い場合」であり、これを。「寒い」の用法①と考えていく。類似の表現に、「背筋が寒い」や「心胆を寒からしめる」といった場合があり、これは慣用句的用法にも見ら

れるものである。

「ギャグが寒い」

- (2) 翔一のオヤジギャグが寒すぎる。(Yahoo! ブログ2008年)

用例 (2) については、Twitterなどのより口語的なものには多く見られるものの、文献資料にはあまり見られず、比較的最近になって使用例が増えているものと考えられる。「興覚めで、盛り上がらない」「しらけている」と言った意味を表している。基本的には、用法①と意味は似ているのだが、「緊張」や「萎縮」の度合いが低いという点が異なっており、それほど強い感情は表していない。ここでは、「緊張の度合いが低い場合」を、「寒い」の用法②として考えていくことにする。

「気持ちが寒い」

- (3) 気持ちが寒いのは相手が欲しくなり想いでというカイロであったまるのもひとつのて (Yahoo! ブログ2008年)

用例 (3) については、(1)(2) の場合とは異なり、「寒さ」から類推される意味として「空虚さ、孤独感または所在なさ」という①や②とは異なる心情を表す場合であると考えられる。ここでは、これを「寒い」の用法③として考えていくことにする。

以上に見たように、「寒い」が感情を表現する場合は、多様な語に用いられている訳ではないが、その用法は広がっていると考えられる。

次に、「寒い」は、どのような名詞を修飾しているのか、BCCWJを用いて「寒い」+名詞の形で500件について検索を行い、「感情表現」としての用法がどの程度存しているのかについて見ていく。その結果、「感情表現」としての用法で得られた語は、次に挙げる語である。

具体的な事象…HN 落語 オヤジギャグ
パンクな彼 質問 ジョーク 歌 ココロ
回答
抽象的なもの…イメージ 思い もの

表情…顔

以上のように、具体的な事象を形容している場合が多いことがわかる。

「寒い思い」

- (4) 学生の時にパーソナル無線が電話に入ってきてかなり寒い思いをしました。出力が2Wもあれば違法ですね。(Yahoo! 知恵袋2005)

用例 (4) は「恐怖や驚きでの緊張を感じる様子」を表している。これに似た用法として、慣用句的に用いられている「背筋が寒くなる」という表現がある。こうした例では緊張の度合いが高い場合であり、用法①と考えることが出来る。

「寒い顔」

- (5) 自分は毎日伽藍の様な書齋に、寒い顔を片付けて見たり、取り乱してみたり、頬杖を突いたり已めたりして暮らしていた。(森本哲郎『日本語表と裏』1988年新潮社)

用例 (5) の類例は他に見出しがたい。ここでは「冴えない顔」といった意味であると考えられる。「所在なさ」についての表現している語であると考えられる。これは「寒い」の用法③と考えられる。

ここで、「寒い顔」について他に用例を求めるために『聞蔵』データベースを検索すると、これとは違った意味で次の例が得られる。

「寒い顔」

- (6) 「この支配からの卒業」というフレーズを「今年ハイカラの卒業」と思い込んでしまった。「何だ、尾崎っておちゃめじゃん」と友達にそのことを話すと寒い顔をされ (2002年6月2日)

用例 (6) では、歌詞を勘違いしていることに対して冷淡な態度で示されたことを表現している。これは「やや軽蔑した表情」という意味として用いられている。これは「寒い」の用法②に分類される。

「冷たい」と「寒い」の具体的な用例に

(4)

「感情」を表す形容詞としての「寒い」について

ついでに比較は、後段で詳しく見るが、BCCWJでは、「冷たい顔」は7件見られ、「寒い顔」よりも多く検索される。

「顔」に類似する意味として、「表情」で検索すると、「冷たい表情」については9件検索されるが、「寒い表情」はBCCWJでは検索されない^(注2)。このことが何を意味するのかについては、後段で考えることにする。

その他の場合について見ていくと、「寒い」が修飾する語は他の場合より具体的な事象について表現している場合が多いことがわかる。以下、用例を見ていく。

「寒い落語」

- (7) 三沢またろうの寒い落語と炎天下でタキシード着た桑田さんのYahoo!ブログ
(2008)

「寒いもの」

- (8) へたくそな余興、新婦の読む手紙。大体どんな披露宴に出ても寒いものばかりです。(Yahoo!ブログ2005)

用例(7)(8)は、先に見た「ギャグが寒い」の場合と共通した意味を持っている。(7)は「落語」を修飾し、(8)は「もの」(ここでは余興や手紙のこと)を修飾している。いずれも「興覚めで盛り上がらない。しらけている」さまを表現している。あまり強い不快感ではなく、これらは用法②に分類される場合と考えられる。

これらの例では「寒い」と「つまらない」「しらけている」の間に意味の類似性が乏しいことが考えられる。意味の類似性が乏しい際に比喩表現が用いられる場合には、具体的な例示することにより、意味の類似性をわかりやすくする必要があるのではないだろうか。また、意味の類似性が乏しい際に比喩を用いると、そこで表現される意味はよりマイルドなものになるのではないかと考えられる。

「Twitterによる検索結果」

BCCWJではあまり多くの用例が得られないため、さらに現代的な用法を得るために、

Twitterにより検索を行い、用例を見ていく。検索期間を3日間に設定したところ、感情を表す意味を持つ場合では18件が検索され、ある程度の用例が存していることがわかる^(注3)。

「(内輪ネタいれるの)が寒い」

- (9) リア友に言っとくけど質問箱に内輪ネタ入れるの本当につまんないし寒いからやめろや(2019年8月30日)

この例では「つまらない」と併用され、「同調できない気持ち」を表現している。

「ジョークが寒い」

- (10) アメリカンなジョークを面白いととるか、寒いととるかで評価が分かれそう
(2019年8月29日)

この例では「面白い」の対義語として使用されている。用例(9)、(10)ともに、「表現主体が持っている感覚とは違うこと」に対して、「興ざめであり不快に感じる」といったマイナス評価に対して使用されていると考えられる。

こうしたことから次の点が観察される。

「寒い」が口語的に感情表現として使用される場合、それほど強い不快感を表現している訳ではない。これらについても「寒い」の用法②に分類される場合である。用法②が用いられるのは、より現代的であり、口語的表現の場合である。

また、「寒い」で譬えられる具体的な事柄や状況が明示されている場合であるということである。

この場合も「寒い」と「つまらない」の意味の間に距離があるため、あまり強い意味としては使用されてないのではないかと考えることが出来る。

こうした、「感覚を表す形容詞」が感覚以外の「感情」を表す語として使用される語として、「寒い」に類似した用法を示す「痛い」が挙げられる。

「痛い」は「寒い」より「強い不快感」を表現する語である。辞典の記述によると、「あ

る人が勘違いなことや面白くないことを言ったり、不可解な行動やぶざまな痛々しいさまを見せたりした時に変だ、おかしい、普通ではないと思う気持ち」（『平成の新語流行語辞典』）とある。

この意味の「痛い」について、Twitterから用例を見ていく。

「痛いやつ」

(11)おばちゃんが自分のことを「魔女」って言って「痛いやつだなあ」なんて思ってるでしょ？（2020年10月6日）

強烈な「寒さ」は、時に「痛み」を覚えることがある。どちらも不快な感覚である。そうした点で「寒い」と「痛い」には、意味の類似性が認められる。ただ、「寒い」感覚＝「痛い」感覚という訳ではない。「寒い」と「痛い」の間には、意味的に少し距離がある。「痛い」の方が「寒い」より強い不快感を表すため、ここでは少し強い感情を表している。

「痛い」は「寒い」より強い感情だと考えられるが、「やつ（人の評価）」と「痛い」の意味の類似性は乏しく、強烈な批判が表現されている訳ではない。

「感覚形容詞」が「感情形容詞」として使用される場合には、ある感覚から類推される感情との間で意味の類似性が乏しい場合にも用いられることがある。そうした際に持つ意味はマイルドなものになると考えることが出来る。

3.2 「寒い」の合成語の用法

ここでは、形容詞「寒い」の派生語や複合語について見ていく。「寒い」には、接頭辞「お」を冠した「お寒い」や重複形容詞「寒々しい」などの派生語や「心」と複合した「心寒い」など多様な語が見られる。ここではこれらの語の場合について見ていく。

3.2.1 「お寒い」の用法

「お寒い」は、上記で見た「寒い」の場

合よりも「感情表現」として用いられる場合が多く存していることについて見ていく。BCCWJで「お寒い」を検索すると延べ語数で20件存しているが、その中で「感情表現」としての用法はそのうち14件存している。用例を見ていくと、「お寒い」は独自の用法を持っていると考えられる。またこのうち「お寒い限り」が4件存しており、これは慣用的な用法として用いられているものである。以下、用例を見ていく。

「お寒い状況」

(12)マーシャル諸島やギルバート諸島を視察して、そのお寒い防衛状況を知った戸塚道太郎にとっても急を要した。（高貫布士『絶対国防権を死守せよ！』2003年有楽出版社）

この例では「十分でない。不足している」という意味である。「寒い」が単独で使用される際にはこうした意味は持っていない。「数量が少なく、密度が低く、間隔があく様子」について「お寒い」と表現しているものと考えられる。他の「お寒い」について見ると、「お寒い品ぞろえ」「お寒いでき」「お寒いギャラリー数」などの場合が見られ、これと同様の意味を持つと考えられる。マイナスの意味を持つ語に、一般に尊敬表現で用いられいわば対義的である接頭辞「お」を冠することで、皮肉を込めた批判的な意味合いを強調した語が生まれたものと考えられる。一般に「お」を冠する必要のないところに「お」を冠すれば、これは一種の強調表現としての用法になる。その強調は「お」の持つ尊敬の意味とは逆のマイナスの意味を付加するという機能を持っていたと考えられる。

この場合のように、「お」を冠することで意味が変化する場合には、「お寒い」以外の他の語の場合も存している。例えば「熱い」に「お」を冠した「お熱い」が「熱愛の関係」についての「からかい、揶揄」の意味を持っていたり、「優しい」の場合でも「お優しい」

(6)

「感情」を表す形容詞としての「寒い」について

という表現でも、皮肉を込めた意味を持つ語として使用されたりする場合が存している。これらの場合も「お寒い」の場合と同様の解釈が可能であると考えられる。

3.2.2 「寒々しい」の場合

「寒々しい」について辞書の記述を見ると、「非常に寒そうな感じである。また、荒涼としている。貧寒である。」(『日本国語大辞典』)とある。BCCWJで「寒々しい」について検索すると、延べ語数で51件検索される。このうち「感情」を表す形容詞としての用法はどの程度存するかを見ると、延べ21件(41.2%)になる。これは「寒い」の場合に比べると多くの数が存していることがわかる(注4)。以下、この21件について詳しく見ていく。

これまでと同様に「寒々しい」がどのような使用状況であるのかについて見ていく。まず、「～」が+「寒々しい」の場合では感情を表す形容詞としての用法は見られないため、「寒々しい」がどのような語を修飾しているのかについて見ていく。

「寒々しい」の被修飾語

次に「寒々しい」により修飾される場合を見ると、21件中延べ15件になっている。異なり語としては、次の語である。

もの こと 光 感じ 風景 景色 気分
「寒々しいもの」

(13)店員がこちらの顔も見ずに「千円からお預かりします」と小声で言うのは、ちょっと寒々しいものがあります。(岩松研吉郎『日本語の化学』2001年 ぶんか社)

この例では、「単調で無機質な感じ。他人事のような素っ気ない様子」を表している。「寒々しいこと」

(14)あらゆる面がピカピカに磨き上げられた大理石で飾り付けられて、荘厳で立派で寒々しいこと限りない。(石丸元章『平壤ハイ』2003年 文藝春秋)

この例では「きちんと整えられていて、隙

のない様子」を表している。

「寒々しい」について辞書での意味を見ると、「非常に寒そうな感じである。また、荒涼としている。貧寒である」(『日本国語大辞典』)とある。用例(13)(14)は、ともに空虚な心情を表す様子であるが、特に用例(14)については「隙のないさま」が表現され、「無機質さ」が強調されている。これらの例は、いずれも「寒い」に置き換えることはできない。すなわちこうした意味は「寒い」単独の場合には見られないものである。形容詞の重複形は、一般に単独で用いられる場合より、強調された意味を持つ。ここでは、「寒い」とは意味の類似性が低くなるため、置き換えは不可能になると考えられる。

ここで、他の重複形形容詞の場合についても考えていく。「痛い」の重複型「痛々しい」は元来、「非常にかわいそうだと感じられるさまである。見ていて気の毒に思う状態である。たいへん哀れである。」(『日本国語大辞典』)の意を持っていた。これはク活用の感覚形容詞「寒い」をシク活用の重複形形容詞「寒々しい」にすることで、情意性を持たせる方法である。現代語に見られる例は、「痛々しい」ではなく単独の「痛い」を使用した場合でも、情意性を持った語として用いられるということになる。現代語では、意図的に意味の類似性が低い語を用いて比喩表現を行う場合がある。そうした比喩表現では、あまり強い情意は表現していないことになる。

3.2.3 「寒々とした」の用法

それでは次に、「寒々とした」の場合について見る。この語の場合もやはり、「寒い」の場合よりは「感情」を表す形容詞としての用法が多く存している。辞書の記述では、「(2)何もなくて殺風景な様子を表す語。荒涼としているさま。」(『日本国語大辞典』)とある。BCCWJを用いて検索を行うと、以下のような結果が得られる。

・「寒々とした」のガ格

これまでと同様に「～」が+「寒々とした」で検索すると、「ガ格」で表示されるのは次の場合のみである。

「寒々としたもの」

(15) それだけ、最近の多くの入院患者の家族の風景が寒ざむとしたものになっているのかもしれない。(宮内美沙子『看護婦は家族の代わりになれない』2000年 角川書店)

この場合は、「家族の愛情の薄さ」を表している。この意味も「寒い」単独の場合では見られない。「寒々とした」とすることで、「寒い」単独では表現できない「感情」の意味を獲得したと見る事が出来る。

・「寒々とした」の被修飾語

「寒々とした」が修飾する名詞について見ても、次に挙げる語のように、「寒い」には見られない場合がある。「寒々とした」は延べ39件検索されるが、感情を表す表現の場合には延べ11件であり「寒い」単独の場合に比較すると、感情を表す表現の場合が多く存していることがわかる。次に、具体的な語について見ていく。

気持ち 思い 気分 切羽詰まった欲望
姿 空気 雰囲気 印象 風景 情景 厳しさ

「寒々とした空気」

(16) 無関心で無責任な「市民」、「大人」が織り成すこの街の寒々とした空気。(『トッコウ服を着ない日』2003年 日本評論社)

この例は、「興覚めで、他人事のようなつれない雰囲気」を表現していると考えられる。これらのことから、「寒い」を単独で使用する場合よりも、重複型や「お」を伴った場合には、「寒い」単独で、直接的に表現する場合とは違った意味を持つ語になると考えられる。「寒々と」と重複形になることで「いかにも～だ」という意味を持ち、「寒い」単独

の場合と意味を変えることで、被修飾語との意味の類似性を生じさせ、それが比喩的な意味を持ちやすいということになるのではないだろうか。

3.2.4 「心寒い」の用法

「寒い」を用いた複合語として、「心寒い」の語も見られる。辞書には「驚き、恐れなどで心が凍る思いである。心にしみて身の縮む思いである」(『日本国語大辞典』)とあり、『散木奇歌集』の例が挙げられており、古くから見られる語であることがわかる。BCCWJで検索すると、「心寒い」は6件見られる。この語の現代語としての意味は、次の例のようにそれほど強い心情を表しているものではないものと考えられる。

「心寒いもの」

(17) 夕暮れ時、恨みを抱いて立ちつくすような風情のススキは心寒いものだが (森谷明子 れんげ野原のまんなかで 2005 東京創元社)

この例では「なんとなく身がすくむ思い」という意味であるが、「心」が冠しているため、ややマイルドな意味の語になっている。同様に「寂しい」-「心寂しい」、「美しい」-「心美しい」の語の場合に「こころ」を冠した場合の方が意味は類推しやすく、感情を表す形容詞として用いられやすいということではないだろうか。これは「心」の持つ意味が影響しているものと考えられる。

3.2.5 「寒い」系のまとめ

「寒い」の比喩表現について、次のようにまとめられる。

「寒い」が感情を表す際に使用される場合は、あまり多くはない。しかし最近の使用例を見ると、「緊張」や「萎縮」の程度があまり高くない場合での使用例が見られるといった、用法の広がりも確認できる。

「寒い」の派生語や複合語は、「寒い」が単

(8)

「感情」を表す形容詞としての「寒い」について

独で使用される場合より、感情を表す語としての用法が多く見られる。この理由としては、「寒い」が単独で使用される場合より派生語や複合語の方が意味の類似性が持ちやすくなるため、特徴を持った比喩表現として使用されるということではないだろうか。

4 「冷たい」の場合

ここでは、「感情」を表現する「冷たい」について、「寒い」の場合と同様に見ていく。「冷たい」のガ格

これまでと同様に、「～が」+「冷たい」で検索すると、「～」に該当する語は延べ語数で276語見られる。そのうち感情を表す意味を持つ場合で、対象になる語がどの程度存在しているのかを見ると、延べ語数で33語(12.0%)という結果が得られる(注5)。

このことは次のように表すことができる。

(感覚) 寒い>冷たい (感情)

以下、具体的にどのような語があるか見ていく。

人の態度・所作の場合…目 態度 瞳 声
応対 周囲 回答 返事 言葉

人の心情の場合…心 気持ち 愛 感情

その他…家庭 先輩 俺 文面

「冷たい」による感情表現は、人の態度や所作を表す場合に多く見られることがわかる。言葉では表現されていない「感情」を表す際に、「冷たい」が用いられていることがわかる。

「感情」を表す語として「寒い」よりも「冷たい」の方が多く使用されるのは、「寒い」と「冷たい」の感情の捉え方に違いがあるためと考えられる。

「冷たい」のとらえ方は、より特定された具体的な部分についての表現である。特定の例示された部分である方が、意味の類似性を把握しやすい。そのため比喩的な意味を持ちやすいということではないだろうか。

「目」や「声」、「態度」といった語は、例えば「表情」よりも具体的な意味を持っている。その具体性が意味の類似性を想像しやすくするため、感情を表す形容詞を生む要因となるのではないだろうか。

それでは次の場合はどうだろうか。

「家庭が冷たい」

(18)それでも家に帰れないお父さんがいるんです。家庭が冷たい、仕事がなく空しい。車庫で眠るお父さんもいるんです(松井宏夫『名医名患』1996年 双葉社)

「冷たい」が比喩の意味で使用される場合には、全体的な環境や雰囲気について表現するのではなく、「目が冷たい」のようにある特定の一部を際に使用される場合が多い。この例を見ると、何か具体的なことを特定して「家庭が冷たい」と表現している訳ではない。家族の様々な態度や様子を総合して「家庭が冷たい」と表現している。『聞蔵』データベースを検索すると「世間が冷たい」「社会が冷たい」といった例も見られ、「冷たい」も用法を広げてきたということではないだろうか。「寒い」で見た比喩用法③が、「寒い落語」「寒いオヤジギャグ」のように具体的なものに使用されているのとは逆の状況であることがわかる。

「冷たい」の被修飾語

次に、「冷たい」がどのような名詞を修飾しているのか、「寒い」の場合と同様にBCCWJで500件を検索すると、「冷感表現」以外の場合は延べ語数で122語になる。これを異なり語数で見ると、74語となる。以下、どのような語が見られるのか、この74語をさらに個々に検索した場合に得られる件数で、複数の語例が見られる場合を次に示す(注6)。

人の態度・所作

目(52) 視線(42) 声(36) 態度(36)
人(24) 印象(16) 言葉(10) 人間(10)
表情(9) 仕打ち(9) 笑み(9) 言い方(8)

口調 (8) 顔 (7) 対応 (4)
 その他 光 (14) 戦争 (7) 声音 (2)

これを見ると、人の態度や所作について表現する機会が多いことがわかる。「冷たい」は、人の「声」や「視線」などのより人間の所作から、「冷淡さ」を感じた場合に、「目」や「声」などのある部分を取り出して表現する場合に用いられている。しかしその所作が、具体的にどのような内容であるのかはあまり明確ではない。以下用例を見ていく。

「冷たい視線」

(19) たまに一人がみなを総意にそぐわない
 操作をすると周囲から一斉に冷たい視線
 を浴びて (中村拓志『Quarter moon』
 1999年 角川書店)

「冷たい視線」とは具体的にはどのような意味だろうか。ここでは「厳しい目つき」から「冷淡さ」や「批判」、また場合によって「無関心なさま」を表現する場合に使用されていると考えられる。

「冷たい声」

(20) 水曜星が、感情の窺えない冷たい声で
 言った。(宮乃崎桜子『歳星天経』2001
 年 文藝春秋)

「冷たい声」というのは、人が発言した内容についての表現ではない。発言の際の様子についての表現である。例えば声の調子が低かったり、感情が込められていなかったり、批判的なものを感じ取ったりする場合に表現されていることがわかる。

「冷たい」の「感情表現」は、より具体的な所作から類推される感情を表現するのに適しているものと考えられる。

「冷たい」が使用されるのは、より具体的な「人の態度や反応の様子」、「声や表情」、「言葉や文章」から受ける心理的にマイナスな印象を感じ取った際であることがわかる。

また、いずれの語でも「寒い」には置き換えにくいと考えられる。

試みに、上に挙げた「冷たい」の被修飾語について、「寒い」に置き換えて検索しても、「寒い顔」の他「うそ寒い笑み」「うすら寒い笑み」以外の場合は検索されない

「寒い」と「冷たい」の比喩的な用法の差異については、感覚を表す用法の場合についてと同様である部分と、同様ではない部分が見られることになる。

すなわち、「感覚表現」の場合の「冷たい」は「冷たい水」や「冷たい雨」のように、ある事象や感情などの一部を特定した対象について使用することが出来る。しかし「寒い」の場合では「寒い水」「寒い雨」のように、ある事象の一部を特定した場合では一般に使用できない。これは「手が冷たい」とは表現しても、そのことを「手が寒い」とは表現できないのと同じことである。「水」にしる「雨」にしる、身体に触れた一部分が「冷たい」と感じるのであって、そういう感覚は「寒い」では表現しない。部分でなく全体的なことを捉える場合には「部屋が寒い」の場合のように「寒い」を用いて表現し、「部屋が冷たい」のように「冷たい」では表現しない。

感情を表す語の場合で考えると、「冷たい」は具体的な意味の類似性が示されている場合に用いられやすいということである。また、「寒い」は「冷たい」よりも全体的なとらえ方で表現する語であるので、譬えられる感情との間に具体的な意味の類似性は乏しくなる。それが、感情表現としてはあまり多く用いられない理由であると考えられる。

4.2 「冷ややか」について

ここでは「冷たい」の類義語として、感情を表す場合の「冷ややか」について、これまでの場合と同様の方法で見ていく。

「冷ややか」のガ格

まず、これまでと同様に、「が」+「冷ややか」について見ていく。「～が」+「冷ややか」で検索した結果、「冷ややか」のガ格には異

なり語数で3語のみで限定的あることがわかる(注7)。具体的には、「顔」「目」「声」がある。これはいずれも人の態度や所作を表し、そこから類推される印象が「冷淡」であることについての表現である。

用例を見ていく。

「声が冷ややか」

- (21)「イヴの、もうひとりのマイケルだ」声
が冷ややかになっていたが、目の冷たさはそれと比べものにならなかった。(ノーラ・ロバーツ『愛と哀しみのメモワール』2004年 扶桑社)

用例(21)の「声が冷ややか」とはどのような所作であろうか。それまでの様子と比べて「興覚めで、無機質なさま」を表現していると考えられる。

この例では「声の冷ややかさ」と「目の冷たさ」が対比的に書かれている。この例では「目の冷たさ」の方が「比べものにならなかった」とあるように、「目の冷たさ」のほうが強い意味を持っている。「ひややか」は「冷たさ」よりはマイルドな意味として用いられている。これは「声」よりも「目」や「視線」からの方が「冷たさ」を感じやすいということであると考えられる。「目」に比べ「声」の方が「冷たさ」との類似性が低いため、意味がマイルドになるということが考えられる。

「冷ややか」の被修飾語

次に「冷ややか」がどのような名詞を修飾しているのかについて見る。BCCWJで「冷ややか」が連体修飾をしている例を見ると延べ語数で255件見られるが、そのうち229件(89.9%)、異なり語数で49件が「感情」を表す場合である(注8)。「冷ややか」は、むしろ「感覚」を表す場合には使用されにくいことがわかる。具体的にどのような語を修飾しているのか次に見ていく。

表情に関係する場合…目 視線 まなざし

笑み 表情 顔 笑い 微笑 頬

表情以外の所作…声 口調 態度 言葉

皮肉 礼儀正しさ 声音 対応

感情…落ち着き 心 沈着さ 鄭重さ 不安

侮蔑 満足感 無力感 愉快

その他…詩性 戯れ 調子 光 影 響き

調子 報道ぶり 市場 色 感触 理性

静寂 感覚 金属音 金属的な響き

これらの語を見ると、「沈着さ」「鄭重さ」「侮蔑」などの抽象的な語も多く見られる。こうしたことから、「冷ややか」は「冷たい」よりも、被修飾語との意味の類似性が低い場合にも使用されやすいと言える。意味の類似性が低い際に比喩が用いられれば、これを解釈する際に想像力が必要になる。これは、書き手の感性を読み取る作業である。そうした理由から、意味の類似性が低い場合に用いられる比喩は、文学的表現として使用されるものと考えられる。

4.3 「ひやっとする」について

ここではさらに類似した表現の語として「ひやっとする」について見ていく。BCCWJで「ひやっとする」は延べ21件見られる。このうち感情を表す意味を持つ場合は9件(42.9%)である。これは、他の語の場合に比べても多くなっていることがわかる。以下、用例を見ていく。

「ひやっとさせる」

- (22)悔し涙で言葉を詰まらせたり、尋常らしからぬ発言をしたりと、周りにいる者をひやっとさせる部分もみうけられた。(橋薫『瞳の奥に』2001年 新風社)

この例のように「ひやっと-する(させる)」という使い方であり、「緊張感や危機感」を「瞬間的に感じた際に冷や汗が出たりする場合」に使用されていることがわかる。「ひやっとする」のこうした用法は、他の例のでも同様の意味を持っている。「緊張」-「汗」-「冷感」という連想はしやすく、固定化した表現

になったものと解釈できる。類似の意味を持つ語として、「肝を冷やす」がある。
なっていると

4.4 「ひえびえ」について

さらに類似の意味を持つ「冷え冷え」について見ていく。「冷え冷え」について、BCCWJを用いて検索すると、延べ64件見られる。このうち感情を表す意味を持つ場合は20件(31.3%)で、やや多めであることがわかる(注9)。以下、用例を見ていく。

「冷え冷えとした空虚」

(23) 浮かれていた空気が一気にしほみ、さして
広くない洋間を冷え冷えとした空虚な
ものに変えた。(『座敷童にできるコト』
七飯宏隆 2005 角川書店)

「冷え冷え」は、「気分が消沈した状況」に用いられる語である。「空気が冷えた様子」と「雰囲気冷了様子」には、意味の類似性がある。さらにそこから受ける感情として「むなしさ」や「よそよそしいさ」の意味を生じさせるものと考えられる。

ここまで見てきた状況から、各語が「感情」を表す際に用いられる程度について次のような順序が想定できる。

(感情) 冷ややか>ひやんとする>冷え冷え(する)>冷たい (感覚)

この順序は、「感情」との意味の類似性を持つ語ほど左側に位置するということを意味している。

4.5 「冷たい」と「冷ややか」の比較

ここでは、「冷たい」と「冷ややか」を比較して、どのような場合に、どちらが多く用いられているのかについて見ていく。

・「冷たい」が多く見られる場合

ここでは「冷たい」と「冷ややか」による表現が、どちらにも見られる場合について、その相違について考察していく。

「冷たい」と「冷ややか」については、「冷

たい視線」42件>「冷ややかな視線」20件、「冷たい目」54件>「冷ややかな目」25件のように「冷たい」の方が、件数は多くなっている。ここまでに見たことから、感情を表す際には「冷たい」より「冷ややか」の方が用いられやすいことがわかる。他の「感情」を表す場合では、「冷たい」が多く見られる語は存していない。「目」や「視線」について表現する際にのみ、「冷たい」が多く用いられることがわかる。

これらの用法に違いが存するのだろうか、用例を見ていく。

「冷たい視線」

(24) わずか数ミリの厚さの紙が、都会の喧騒や人々の冷たい視線を遮ってくれる。
(「いえづくりをしながら考えたこと」
縄文人 2002 エクスナレッジ)

「冷ややかな視線」

(25) 茶化したネコは、たちまち女の手三人の冷ややかな視線を浴び、凍り付いた。(『リパーゲーム』霧咲遼樹 1996 集英社)

「感情」と「冷たい」の間では、意味の類似性はあまり高くない。しかし「目」や「視線」について具体的に提示されると、意味の類似性が高くなるということではないだろうか。

「冷たい」と「冷ややか」が同程度の場合

しかし、ほぼ同程度に見られる場合もある。冷たい笑み4件-冷ややかな微笑3件、冷たい文章1件-冷ややかな文章1件

「冷たい文章」

(26) 「温子」がまた北極の氷山よりも冷たい文章を太平洋のむこう側に送ります。
(「文通英語術」ロジャー・パルバース
1995年 岩波書店)

「冷ややかな文章」

(27) 「機密戦争日誌」の役人風冷ややかな文章は、それだけに、大本営の無能、無為、無策を如実に伝える。(「終戦日記を読む」野坂昭如2005年 日本放送出版会)

両例とも「文章」を修飾しているが、これらにはどのような違いが見られるだろうか。用例(26)は「北極の氷山」のように具体的に連想するものが挙げられている場合は、「冷ややか」で表現する必要はないことになる。具体性があれば、意味の類似性は見出しやすくなるからである。

一方「冷ややか」の方は「役人風の」とあり、「いかにも冷淡な印象を受ける」という意味で用いられている。この場合「役人風」の具体的な意味はそれほど明示的ではない。これは「北極の氷山」に比べれば、「役人風」は具体性が乏しいからである。そのため用例(27)は、意味の類似性は「北極の氷山」に比べて低く、筆者の感性を含めた表現になっている。これは筆者の感性を表現する際に、接辞「やか」の持つ意味が反映しているためであると考えられる。

「冷ややか」が多く見られ「冷たい」は見られない場合

また、次に挙げる語は「冷ややかな」では表現されるものの、「冷たい」で表現されている場合が見られない語である。これはほぼ先に挙げた語と一致している。

調子 精神 皮肉 無力感 金属音 礼儀正しさ 鄭重さ 侮辱 理性 戯れ 妹 愉快

これらの抽象的な意味を持つ語を比喩表現に用いることが、感情を表す「冷ややか」の特徴を示していると考えられる。これらの語は「冷たい」で多く見られた「目」や「視線」などとは異なり、具体性が乏しく、被修飾語との間の意味の類似性が捉えにくい。意味の類似性は、読み手による想像が必要になる。ここにあげた語のように、「冷ややかな精神」や「冷ややかな無力感」と表現されても、これらの意味を機械的にとらえるのは難しい。

一般には、伝わりやすく誤解のないような表現を指向する。しかし、こうした比喩表現についてはそれとは異なる方向が考えられ

る。すなわち、意味の類似性が低い場合にも用いられる比喩表現があり、筆者が読み手による想像を期待し、その想像が意味の類似性を埋めることを期待した場合である。文学作品ではそうした場合でも比喩表現が用いられることが確認できる。

以下、いくつか用例を見ていく。

「冷ややかな鄭重さ」

(28)客間につくと、私は見せかけの冷ややかな鄭重さのもとに隠して、最高に逆上しておりました。(『マーク・トゥエインコレクション』 マーク・トゥエイン著 金谷良夫訳 2001 彩流社)

ここでは、「言葉を発する態度や様子の冷淡さ」を意味している。素振りや声の調子など、さまざまな様子が「冷ややか」で表現されていることが看取され、具体的な意味はつかみにくい。やはり「冷ややか」が表現する意味は、抽象度が高いものであると考えられる。

「冷ややかな侮辱」

(29)彼らがアフリカで死ぬようなことがあれば、とランダーは自分の処遇について冷ややかな侮蔑をにじませ、ある種の慰めを感じつつ最後に皮肉を込めて付け加えている。(『大探検時代の博物学者たち』ピーター・レイビー著 高田朔訳 2000 河出書房)

この例で「冷ややかな侮蔑」とはどのような意味だろうか。ここでは、傍観者のように、冷静に、強い感情を示さずに「侮蔑」している様子を表現しているのではないだろうか。

こうした表現は、一般に用いられる意味の類似性が捉えやすい場合とは異なり、文学作品で読者の想像力を掻き立てるものとして使用される場合があるのではないだろうか。

5 まとめ

「寒い」と「冷たい」の比喩表現から観察

されることとして、以下のことがまとめられる。

ある語が比喩として用いられる場合、比喩表現に用いられるのは意味の類似性がある場合ほど比喩表現として用いられる。意味の類似性が乏しい場合には、具体的な語を伴い意味の類似性を補う方法を取りながら比喩表現が用いられる。また意味の類似性が乏しい場合の比喩表現は、あまり強い意味は持たず、マイルドな意味になることがわかった。さらに、想像力を掻き立てるための用法として、単純な伝達を目的とする場合でなければ、意味の類似性が乏しい場合にも比喩が使用されることがあることが確認される。

注

- 注1 BCCWJで「が」+「寒い」で検索した結果である。またここに示した延べ語数158件には、「(オヤジギャグ) が」+「寒すぎる」2件が含まれている。また慣用句化している場合である「背筋が寒い」はここに含めていない。
- 注2 BCCWJでは「寒い表情」は検索されないが、Twitterには「反応がかなり寒い表情だったの」のように「寒い表情」の例は存している。
- 注3 Twitter「寒い」の検索は2019年8月29日～31日。感情を表す形容詞の用例を求めるため、夏期の用例から検索した。
- 注4 「寒々しい」には感覚表現とも感情表現ともどちらとも取れる例が3件あり、この数は含めていない。
- 注5 「～が冷たい」で検索した語のうち、「太郎が冷たく言った」のような場合は除いたため、276語とした。
- 注6 ここでの延べ語数は、500件に限定したものではなく、「冷たい声」などそれぞれがどの程度見られるのかについて検索した結果得られた数値である。
- 注7 「が」+「冷ややが」でこれ以外に検索されるのは、「ヒト」(固有名詞)であり、人物全体の様子から感じられるという表現になっている。これは、「ヒトが冷ややかに〇〇する」という場合である。これ以外の場合は、「ヒト」(固有名詞)であり、人物全体の様子から感じられるという表現になっている。
- 注8 少納言で「冷ややかな」「冷やかな」「ひややかな」で検索して得られた数値である。重

複して見られる例については減じた数である。

注9 「冷え冷え」には「冷蔵庫の中で冷え冷えにしておいた」のような「ひえひえ」と見られる使用法は含めていない。

参考文献

『認知意味論のしくみ』(町田健編 杉山洋介著
2002年 研究社)

参考資料

『角川古語大辞典』(中村幸彦他編 1984年 角川書店)

『日本国語大辞典 第二版』(2000年12月 小学館)

『日本語新辞典』(松井栄一編 2005 小学館)

『平成の新語・流行語辞典』(米川明彦著 2019年 東京堂)

『聞蔵』Ⅱ ビジュアル (朝日新聞記事データベース) database.asahi.com/

Twitter <https://twitter.com>

BCCWJ 中納言<https://chunagon.ninjal.ac.jp>

少納言<https://shonagon.ninjal.ac.jp>

